

(4) 意識調査の結果にみられるその他の特徴ある傾向

① 学校生活や家庭生活などの実態や生活態度等に関する意識の傾向

- ア 「勉強が好き」と答えた児童は、学校が好きと答える傾向がある。
- イ 1日の勉強時間については、「まったくしない、30分未満」と答えた児童生徒の割合は、小4は22%、小6は14%、中3は17%であり、家庭での学習時間が少ないことが分かる。
- ウ 学校へ行く前に「朝食を必ずとる・たいていとる」と答えた児童生徒の割合は、かなり高く、小4は95%、小6は96%、中3は92%である。
- エ 1日に2時間以上テレビを見たり、ゲームをすると答えた児童生徒の割合は、小4は47%、小6は66%、中3は64%であり、テレビやゲームに費やす時間がかなり多い。
- オ 1か月に本を全く読まない児童生徒の割合は、小4と小6が8%、中3が22%であり、中3に読書離れの傾向がみられる。

② 教科に対する意識の傾向

- ア 中3では、国語の大切さは感じているが、授業が「わからない」「どちらかといえばわからない」と答えた生徒の割合は20%である。
- イ 小4、小6は約80%の児童が「習った漢字をふだんの生活で使うように心がけている」が、中3の生徒の割合は約60%に下がっている。
- ウ 算数・数学の授業が「わからない」「どちらかといえばわからない」と答えた中3の生徒の割合は30%で、小6の3倍である。
- エ 「算数・数学の時間にいろいろな考え方や解き方を発表し合うのは楽しい」と答えた児童生徒の割合は、小4は49%、小6は45%、中3は23%と学年が進むにしたがって減少している。
- オ 英語の授業が「わからない」「どちらかといえばわからない」と答えた中3は、42%である。
- カ ALT以外の外国の人と話をしたことがある生徒は29%である。

③ 意識調査と教科の通過率との関係

- ア 「勉強が好き」と答えた児童生徒の基礎学力は高い傾向にある。
- イ 「学校の授業がわかる」と答えた児童生徒の基礎学力は高い傾向にある。
- ウ 勉強でわからないことがあったら、誰かに聞いたり自分で調べたりする児童生徒の基礎学力は高い傾向にある。
- エ 中3では、授業中に先生の話や友だちの発表を聞いている生徒の基礎学力は高い傾向にある。
- オ 「宿題の他にも自分で考えて勉強する」と答えた児童生徒の基礎学力は高い傾向にある。
- カ 学校に持って行くものを前日もしくは当日の朝準備している児童生徒の基礎学力は高い傾向にある。
- キ 「国語の授業がわかる」と答えた児童生徒の国語の基礎学力は高い傾向にある。
- ク 中3では、数学が「好き」と答えた生徒の数学の基礎学力は高い傾向にある。
- ケ 「数学の授業がわかる」と答えた、中3の生徒の数学の基礎学力は高い傾向にある。
- コ 中3では、計算の学習が「好き」と答えた生徒の数学の基礎学力は高い傾向にある。
- サ 中3では、図形の学習が「好き」と答えた生徒の数学の基礎学力は高い傾向にある。
- シ 中3では、「式や表グラフを使って数や量の関係を表す学習が好き」と答えた生徒の基礎学力は高い傾向にある。
- ス 中3では、問題が解けなかったときもう一度やり直そうとしている生徒は基礎学力が高い傾向にある。また、小6でもややその傾向がみられる。
- セ 英語が「好き」と答えた生徒は、英語の基礎学力が高い傾向にある。
- ソ 英語の授業が「わかる」と答えた生徒の英語の基礎学力は高い傾向にある。
- タ 学習した単語や基本文を身につけようと努力している生徒は、英語の基礎学力が高い傾向にある。